

素 顔 拝 見



顎顔面口腔外科学分野

平 井 秀 明

2023年1月1日付けで顎顔面口腔外科学分野の准教授を拝命いたしました平井秀明と申します。素顔拝見という機会を頂きましたので簡単ですが自己紹介させていただきます。生まれは東京都杉並区ですが、小学校から高校までは茨城県で過ごしました。茨城県立土浦第一高等学校を卒業し、東京医科歯科大学へ進学しました。小さい頃から野球ばかり、大学も野球部に所属していました（ただ観るのはサッカーで鹿島アントラーズの大ファンです）。教養時代の講義で見た舌癌の手術動画に心動かされ、1年生の秋には将来口腔外科の道へ進もうと決めていました。大学卒業後は東京医科歯科大学大学院 顎口腔腫瘍外科学分野へ入局し、口腔がんの第一人者であった小村 健 教授の下、月・水曜日は手術室、火・木曜日は外来教授診察と大学院の4年間は臨床漬けの日々でした。大学院卒業後は、山梨県立中央病院、千葉県がんセンターで研鑽を積み、2010年10月 東京医科歯科大学へ戻り、病棟医長として多くの患者さんや手術に携わることができました。医科歯科は月～金曜の毎日が全身麻酔手術日であり、再建症例も週1-2例、月日の流れは早く、気付いたらアツという間の12年間でした。

さて話は変わり、『深夜特急』という小説を知っていますか？ 沢木耕太郎のユーラシア大陸を横断しロンドンまでの紀行小説です。自分のモットーは『取り合えずやってみる（経験してみる）』、この小説に影響を受けた19歳の自分は、初海外を航空券のみ購入しバンコクへ飛び立ちました。『地球の歩き方』片手にトゥクトゥクを駆使し、運賃

交渉での言い合いや、ホテル探し、屋台での注文など1つ1つが貴重な経験でした。英語は話せなくても何とかなるものだと実感した自分は、その後は台湾、香港、ベトナム、インドとアジアを中心に非日常を味わうため旅をしました（ちなみにインドは本当に、、過酷）。奥さんと出会ってからは再びの台湾、香港に加えイタリア、フランス、メキシコ（マヤ文明のピラミッド観光を何とか説得）へ、子供が生まれてからは国内中心と現在は活動範囲が縮小傾向ですが、そろそろ1人旅を再開し、世界遺産を中心とした非日常に浸かりたい衝動に駆られている今日この頃です。

最後となりますが、新潟大学へは自分の経験を伝えるために来ました。手術はやらないとうまくなりません、だが解剖の知識や結紮・縫合といった基本手技が身に付いていない者は手術をする資格はありません。臨床は妥協せず、オフは皆でお酒を酌み交わすといったアメとムチを使い分け、医局員のレベルアップ＝新潟大学口腔外科の発展となるよう日々努力していく所存です。御縁あって来た新潟の美味しい魚とお酒を満喫したいと思います。今後とも宜しくお願い致します。



歯科総合診療科

都 野 さやか

令和4年4月から歯科総合診療科の特任助教を拝命いたしました、都野さやかと申します。この度、歯学部ニュース「素顔拝見」の執筆の機会をいただきましたので、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

出身は新潟県上越市です。上越市も合併してか

なり面積の広い市となっていますが、私は旧上越市高田地区の出身です。桜の名所である高田城址公園が有名で、観桜会の季節になると、普段は静かな町では見たこともないくらいたくさんの方が訪れます。本当に綺麗ですので、まだ行ったことがないという方はぜひ足を運んでみてください。特に夜桜がおすすめなのですが、春とはいえ夜はかなり冷え込みますので、しっかり防寒して行かれることをお勧めします。

運動よりも読書が好き、クラブも合唱と吹奏楽をやっていた小学生時代でしたが、中学入学時に某テレビドラマの影響で友人たちに誘われ、バレーボール部に入部しました。そこからすっかりバレーボールにはまり、気づけば高校入学後もバレーボール部に所属し、勉強はそこそこ頑張り、部活に一生懸命な高校生活を過ごしました。いまでも割と体力と根性はある方だと思っているのですが、これは学生時代の部活動で揉まれた成果かなと思っています。高校卒業後は、元々医療系の職種につきたいと思っていたことと、歯科医師である父の影響もあり歯学部を受験、46期生として新潟大学に入学し、頼もしい同期に恵まれて充実した6年間を過ごすことができました。また大学時代もバレーボール部に所属していたため、同期をはじめたくさんの先輩方・後輩達と活動できたのもよい思い出となっています。

大学卒業後は、新潟大学医歯学総合病院での臨床研修と1年間の後期研修を行ったのちに、歯科臨床教育学分野にて大学院を修了させていただきました。現在は、歯科総合診療科にて研修医の先生の指導と、学部実習（主に早期臨床実習Ⅰ）を担当させていただいています。指導する立場になると、改めて自身の知識・技能で曖昧なところが浮き彫りになり、逆に教えてもらっていることが多いような気がしてしまう日々ですが、皆さんに負けずに自分自身も成長できるように頑張っていきたいと思っています。最後になりますが、未熟ながら新潟大学歯学部の発展に少しでも貢献できるよう精進してまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



歯科麻酔科

山本 徹

令和4年12月1日付で歯科麻酔科の助教を拝命いたしました、山本 徹（やまもと とおる）と申します。このたび「素顔拝見」の記事を寄稿させていただく機会を頂きましたので、この場をお借りして自己紹介や近況について記したく存じます。

出身は広島県呉市の瀬戸内海に面する港町です。新潟市も歴史ある港を有し、なんとなく同じような景色もあったりして勝手に親近感を抱いている今日この頃です。

私は2008年九州歯科大学を卒業後、九州歯科大学大学院で博士号を取得し、鶴見大学で助教として歯科麻酔学の学生教育・臨床・研究に従事してきました。その後、東京医科歯科大学麻酔生体管理学分野を経て、2017年4月から2021年3月まで4年間米国University of California, Los Angeles (UCLA) に留学し、慢性頭痛と神経障害性疼痛について痛みの基礎研究を行っていました。パスポートやVISAの更新をしながら、税制上の居住者（永住権、いわゆるグリーンカードの前の段階、州税や連邦税を納め、陪審員の招集案内も届くという微妙な立ち位置）として地域のコミュニティに溶け込み生活していましたが、米国での仕事が一区切りつき、帰国先を探していたところ、ご縁あり新潟大学に来させていただくことになりました。

ロサンゼルスでの生活からありとあらゆることが一変し、なかなかすぐに適応できない自分に情けなさを感じながらも、瀬尾憲司教授、岸本直隆准教授、田中裕統括医局長をはじめ、医局の先生方や関係する皆様に大変良くしていただき、感謝申し上げます。

2014年に歯科麻酔学会専門医を取得していたものの、海外留学のため一旦資格停止措置となり、再び専門医試験を受験できる要件が揃ったため、

この度復帰を目指して2回目の受験となりました。無事専門医資格を回復し、「また取れば良い」という前例を見せることができたので、これから海外留学に興味を抱く後進がいれば臆せずチャレンジして行ってほしいと思います。

私生活では、昨年6月に娘が生まれ、共働きのため、あゆみ保育園への送り迎えをしております。学内を抱っこ紐で娘を抱いて歩く姿を見かけましたら、温かく見守っていただければ幸いです。

歯科麻酔学の臨床・研究・教育を通じて新潟大学歯学部的发展に少しでも貢献できるよう微力ながら力を尽くしていきたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



University of California, Los Angeles (UCLA)の留学先Labでの誕生日会ランチのひとつ。日本人は私1人。フランス、ロシア、インド、ポルトガル、アメリカ各地からの研究者たちと。

